

基本構想（素案）に対する意見一覧

【第4回総合計画審議会】

No.	分野	委員によるご意見
1	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標 4. まちづくりの進め方	（徳久委員） まちづくりの進め方の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」については目的であり、同時に「ともに進める」というのは手段にもなる。このため、めざすまちの姿に、例えば、「みんなでつくるまち・枚方」という目標があつて、その目標に向けて5つの基本目標が出てきて、手段として、NPO等の民間団体が主体でやるのか、公民連携でやるのかなどの実施の形が出てくるのではないかと。

【第1部会】

No.	分野	委員によるご意見
1-1	I 総合計画の策定にあたって 4. 計画の構成と期間	（小原委員） 住みよいまちにしていくのに、市長の任期4年にあわせるということなのか。このあたりは市長の任期にあわせるというのは疑問である。
1-2	I 総合計画の策定にあたって 4. 計画の構成と期間	（宮原委員） 市長が変わったとたんに、政策がころっと変わったら全て変わってしまう。「住みたい、住み続けたい」というのは市長が変わっても変えづらい。あくまで、理念は変わらない目標で、事業の計画は期間を刻まざるを得ないと思う。
1-3	I 総合計画の策定にあたって 4. 計画の構成と期間	（新川部会長） 基本構想は大体30年ぐらいの間、基本計画は12年間で、毎年の行政運営に関わるような計画も必要だと言うことで実行計画は4年区切りで考えていこうという趣旨である。審議会として、市長が代われれば計画の考え方が大きく変わるといったことがないような計画にしていく必要がある。一方、社会状況が変化中、首長はその変化を踏まえた中で選ばれてくるので、そうした場合にも柔軟に対応できる計画にしていく必要がある。
1-4	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標 4. まちづくりの進め方	（徳久委員） まちづくりの進め方の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」については、基本目標か、場合によっては最上位にくる可能性もあり、その上で住み続けたいまちをみんなでつくるという形になると思う。
1-5	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（北川委員） めざすまちの「住みたい、住み続けたいと感じられるまち」について、枚方市は観光都市でもなく、昼だけ働きに来るといった場所でもない、やはり寝に帰るとするか、家を持って住むという場所だと思うので、方向性としてはいいと思う。
1-6	Ⅱ 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（三輪信哉委員） 将来像の「こうありたい」ということにこそ選択と集中が必要で、どんなまちになりたいかという理想像に近づいていけるように、計画に書いておく必要がある。

1-7	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	（加藤副部長） 5つの基本目標については、「めざすまちの姿」を具体的にブレークダウンした形で書いているので、基本的にはこれで良いと思う。
1-8	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標	（加藤副部長） 5つの基本目標では、まちという状態を指すのではなくて、できたら「まちづくり」ぐらいにした方が、より能動的な部分が入ってくると思う。
1-9	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■健康で、ともに助け合うやさしいまち、■子どもが輝き、文化を育む教育のまち）	（北川委員） 「健康で、ともに助け合うやさしいまち」で「健康で」と「ともに助け合う」、「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」では、「子どもが輝き」「文化を育む」がどのようにリンクしているのか。基本目標数は少ない方が分かりやすいが、無理やり創ったような印象がある。
1-10	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■活気があふれ、賑わいのあるまち）	（岡田委員） 基本目標の「活気があふれ、賑わいのあるまち」の中で、「農業の保全に努めます」とあるが、枚方市では農地が減少しており、大きな原因に、市街化調整区域の農地が減少している状況がある。
1-11	Ⅱ 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■活気があふれ、賑わいのあるまち）	（岡田委員） 基本目標の「活気があふれ、賑わいのあるまち」に農業が入っているが、それだけではない部分もある。「自然と共生し、美しい環境を守るまち」や「健康で、ともに助け合うやさしいまち」「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」にも関連してくるのではないかと。
1-12	Ⅱ 基本構想（素案） 4. まちづくりの進め方	（三輪信哉委員） 「まちづくりの進め方」の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」は理解できるが、「効率的な市政運営」「情報発信力の強化」「広域的な連携と地方分権の推進」は、行政の心構えのように感じ、少し別種のように思う。
1-13	Ⅱ 基本構想（素案） 4. まちづくりの進め方	（新川部長） 情報発信については、市民・NPO・事業者・地域の団体の方々を、積極的に同じ市民に対して情報発信していく必要があるかもしれない。
1-14	素案全般	（小原委員） 世代間の助け合いが重要。まちには高齢者・中学生など様々な世代の市民がいる。災害時など中学生がどれだけまちの役に立ってもらえるか、行政が間に立ち、話し合いの場をもってもらえればと考えている。
1-15	素案全般	（本田委員） 総合計画で決まったことが、どのくらい市民が知り、市役所が意識しているのか、ひとつの方向に向かって頑張ろうという気持ちになるような仕組みがつけられているのか運用のところが気になる。 また、例えば人口の減少率など、はっきりとした指標を基本構想あるいは基本計画策定時のどの時点で計画の中に入れていくのか。計画の中に具体的に絞った目標にするものがあれば、分かりやすい。
1-16	素案全般	（宮原委員） 構想素案の中で、「市民・NPO・事業者・行政」と表現しているが、市民・事業者・行政以外をNPOで括るのは、疑問に思う人がいるのではないかと。

1-17	素案全般	<p>(加藤副部長)</p> <p>基本的な考え方の「選択と集中の視点を持った計画」であるが、基本計画の5つの基本目標はすべての分野のことを言っているということであれば、選択と集中をどういうふうに考えていくかが重要なポイントになる。例えば、「住みたい、住み続けたい」、いわゆる人が暮らしやすい住宅都市を最大の評価基準にして、それを切り口に施策をつくっていくという視点もあるのではないかな。</p>
1-18	素案全般	<p>(三輪信哉委員)</p> <p>この案で幸福感が高まるのかということに非常に興味がある。総合計画で「農」「自然」がきちんと前に出て、緑がものすごく保全されている特徴的なまちにしていかなければ、他の中核市と変わらないまちになってしまう。</p> <p>そこに住んでいることの意味、このまちに住んでよかったという感覚が持てるまちをめざして、今から力を注いでいかなければどの都市とも同じようなまちになってしまうのではないかな。</p>
1-19	素案全般	<p>(三輪信哉委員)</p> <p>今後、互助・共助に関心をもつ子どもが減っていくことが危惧されるので、地域のために動こうとする青年層など、地域をどんどん強化していくことを最優先にしていくなが必要があると思う。</p>
1-20	素案全般	<p>(徳久委員)</p> <p>まちづくりを担う人材を育成していくことが非常に重要になってくると考えられるが、この点が5つの基本目標に含まれておらず、市がこういうまちを実現しますという「与えられたまち」というイメージが強い。市民皆で計画を作り、まちづくりの担い手をどんどん育成していくことが重要である。</p>
1-21	素案全般	<p>(徳久委員)</p> <p>例えば、住宅地であれば、どのような要素を持った住宅地にするかなど、まず初めに、まち全体を今後どのようにしていくのかというような大きな議論を行った上で、具体的な事業におとしていってはどうか。</p>
1-22	素案全般	<p>(宮原委員)</p> <p>枚方市では、健康都市とか非核都市、平和都市など、5つか6つうたっていると思う。これは宣言しているだけで、総合計画とは関係ないのか。</p> <p>【ご質問に対する回答】(事務局)</p> <p>総合計画は、めざすまちの姿を達成するため、基本的な市の施策を掲げるものなので、都市宣言と密接に位置づけながらつくっているわけではないが、大きな枠組みの中で関連している。</p> <p><参考：枚方市の都市宣言></p> <p>○交通安全都市宣言 ○精神衛生都市宣言 ○暴力排除都市宣言 ○非核平和都市宣言 ○人権尊重都市宣言 ○健康・福祉推進都市宣言</p>
1-23	素案全般	<p>(加藤副部長)</p> <p>ブランドの発信と言っているが、具体的に何を発信するのかということが大事だと思う。健康都市や、医療が受けられるという発信の仕方もあると思うし、農産物も生活に密着しており、そこを頑張っているとの情報発信が必要だと思う。</p>

【第2部会】

No.	分野	委員によるご意見
2-1	I 総合計画の策定にあたって 1. 計画策定の趣旨	(榮野委員) 「計画策定の趣旨」の3項目について、3つ目の「市民・NPO・事業者・行政のパートナーシップ」の項目は、他の2つの行政の視点の項目よりも上位にし、一番上に持ってくるべきではないか。
2-2	I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題	(橋本委員) 「計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題」などの文章中において、まちづくりの方向性とかキーワードになるものはアンダーラインや太字にした方が、そういったエビデンスがあるから、基本的な目標につながっているといった見え方になるので、見やすさも含めて検討した方がいいと思う。
2-3	I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (1) 少子高齢化・人口減少の進展	(榮野委員) 「少子高齢化・人口減少の進展」においては、行政への影響が大きく、市民生活全般に多大な影響を及ぼすとあるが、そのほか、コミュニティの維持にこんな支障があるといった分析も盛り込んだ方がよいのではないか。
2-4	I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (2) 安全・安心に対する意識の高まり	(嶋田委員) 「安全・安心に対する意識の高まり」において、自然災害への意識が高まっていることをすごく感じるところだが、自治会の加入率が下がっていたり、子ども会に入らない世帯が増えていることを聞くと、人どうしのつながりとかコミュニケーションが重要視されていないように感じる。ハード面の整備だけでなく、市民の意識を変えるような施策を進める必要があると思う。
2-5	I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (2) 安全・安心に対する意識の高まり	(嶋田委員) 震災が起きた際に、第一次待避所などがあると思うが、地域によっては、公民館や公園などの待避所がなかったり、あまり徹底されてなかったりして、全員がバラバラに小学校に向かっていくという形になってしまうところがある。住民同士の助け合い・連携が大切になっているので、日頃から自然に集える場所が必要だと思う。 また、待避できる公民館や公園がない町が枚方市内にどのくらいあるのかデータがあれば教えてほしい。 あわせて、南海トラフなどの巨大地震が起こった際に、枚方市がどのくらいの影響を受けることが予想されるのかということも教えてほしい。 【ご質問に対する回答】(事務局) 災害時において、各小学校などの第一次避難所に個別に向かう前に、安全な避難誘導や要援護者の安否確認などを行うため、自治会単位で一時的に集まり、集団避難することが望ましいところであるが、一時的な避難地の設定については、各自治会の対応に委ねており、どのくらい設置されているかは市では把握していない。 また、南海トラフ巨大地震による枚方市の被害想定については、別添資料1「南海トラフ巨大地震による被害想定について」のとおり。

2-6	<p>I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (4) 地方分権の推進と都市間競争の本格化</p>	<p>(嶋田委員) 「地方分権の推進と都市間競争の本格化」の「枚方市が抱える主な課題」で、中核市へ移行したということが大きく取りあげられているが、中核市への移行でどの程度、ブランド化というものが図れるのかを教えてください。また、ブランド化や他都市との差別化について他にビジョンがあるのであれば、教えてください。</p> <p>【ご質問に対する回答】(事務局) 中核市移行により、本市が進めている都市ブランドにつながる効果について、別添資料2「中核市移行に関する資料」のとおり。</p> <p>また、枚方市のブランド化については、「健康医療都市」「教育文化都市」を掲げており、多くの方々から「選ばれるまち」をめざして、以下のような取り組みを推進している。</p> <p><健康医療都市>主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期救急から高度救命まで充実した救急医療 ・新病院(市立ひらかた病院)による医療体制の充実 ・市内の5つの公的病院や3つの医系大学などにより、「健康医療都市ひらかたコンソーシアム(共同事業体)」を設立 ・介護予防事業の推進 ・健康増進につながるスポーツ振興(東部スポーツ公園の整備等) <p><教育文化都市>主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級編制の実施 ・学校環境の充実(小中学校耐震化・エアコン設置完了、トイレ改修) ・中学校給食の実施等に向けた新学校給食共同調理場の整備 ・教職員研修の充実 ・総合文化施設の整備
2-7	<p>I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (4) 地方分権の推進と都市間競争の本格化</p>	<p>(後閑副部長) 中核市になり、市が自主的に自立的に行える業務として、福祉の面や保健衛生の面は大きいと思う。中核市の記述については、例えば、感染症の問題が起きた時に、府が主導でやっていたことが、市が主導でできるようになったというようなことが具体的にイメージできるような文章で説明すると分かりやすいと思う。</p>
2-8	<p>I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (6) 情報通信技術の発展</p>	<p>(榮野委員) 「情報通信技術の発展」の「枚方市が抱える主な課題」について、行政体としての情報発信、開かれた行政をめざすという観点と、情報通信技術を活用するという観点が混在しているので、この2つは論点を分けた方が分かりやすいのではないかと。</p>
2-9	<p>I 総合計画の策定にあたって 2. 計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題 (6) 情報通信技術の発展</p>	<p>(角野委員) 「情報通信技術の発展」の「計画策定の背景」に記載されている危惧される内容を、「枚方市が抱える主な課題」にもう少し触れておくべきではないかと。</p>

2-10	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 3. まちづくりの基本目標 4. まちづくりの進め方	（榮野委員） 「まちづくりの進め方」の4項目のうち、1つ目の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」はまちづくりを進める主体の内容である一方、他の3項目「効率的な市政運営」、「情報発信力の強化」、「広域的な連携と地方分権の推進」は行政体としての整理なので、分けた方がいいと思う。特に、1つ目の項目は、まちづくりの目標と並列で上位に位置づけるべきではないか。
2-11	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿 4. まちづくりの進め方	（富岡委員） 「ともに進めるまちづくり」については、今、市としては自治会の減少ということと、反対の方向に進んでいるのかもしれないが、その考え方を市民と共有し、実際にそれを実現していけるかどうかということが大きな鍵になると思う。実はそのことが本当に自分たちが安心して、あるいは自分たちの環境を良くしていくことにつながっていくということを総合テーマでイメージをさせるようなものを出していけるかが大切だと思う。
2-12	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（伊東委員） 「めざすまちの姿」の「住みたい、住み続けたいと感じられるまち・枚方」というのは、行政の希望のように感じる。一人ひとりがどういう立場でこれをめざしたらいいのか曖昧で、ぼやけているように思う。
2-13	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（橋本委員） 「めざすまちの姿」の「住みたい」というのはおそらく行政だとか、市外の方々を主体とした感じがする。市民が主体となると、「住み続けたい」の方だと思うので、例えば、「住み続けたいと感じられる魅力溢れるまち、枚方」みたいな内容にして、魅力が溢れると市外の方も入居してこられるのではないかなと思う。最小限の変更であれば、「住みたい」より「住み続けたい」を先にした方がいいのではないかな。
2-14	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（谷本委員） 「めざすまちの姿」では、「住みたい、住み続けたい」と思わせる魅力を十分アピールできるような言葉を当てはめた方がいいと思う。
2-15	II 基本構想（素案） 2. めざすまちの姿	（後閑副部長） 「めざすまちの姿」について、「住み続けたい」というのが、具体的にどのような共通概念でそう思うのかということがはっきりしていないと思う。例えば、健康、安全、教育などの理想やイメージがあって、だから住み続けたいというふうなことが中に入ってこない、5つのシンボリックな目標をまとめたイメージにならないと思う。
2-16	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■子どもが輝き、文化を育む教育のまち）	（角野委員） 5つの基本目標のうち、「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」について、「文化を育む」の表現は、なかなか市民にはイメージが湧かないと思うので、イメージが湧くようにした方がいいのではないかな。
2-17	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■子どもが輝き、文化を育む教育のまち）	（角野委員） 5つの基本目標のうち、「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」において、「安心して産み育てられるまち」という表現があるが、安心の意味合いはものすごく幅広く、子育て世代から見た場合には、安全ということも意味合いとして入ってくる。学校とか教育に関して言うと、安心というのとセットで安全というのがものすごく今キーワードになっていると思う。

2-18	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■子どもが輝き、文化を育む教育のまち）	（高井委員） 5つの基本目標のうち、「子どもが輝き、文化を育む教育のまち」において、「社会や自然を感じる体験学習」に取り組むことについては、学校での授業を確保するのが難しかったり、夏休みを短縮してでも授業をはじめていたりという現状がある中で、プラスアルファで体験学習や環境教育の推進まで至らないところを感じる。このあたりをどう推進していくかが、ひとつのキーになると思う。
2-19	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■活気があふれ、賑わいのあるまち）	（橋本委員） 5つの基本目標のうち、「活気があふれ、賑わいのあるまち」という表現だが、最近、枚方市駅を夜に通ると、人と人とのトラブルが多いように感じており、「活気があふれ」はいいけれど、「賑わい」については「人々が集いあえる」など、表現を変えてもいいのではないか。
2-20	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■活気があふれ、賑わいのあるまち）	（谷本委員） 5つの基本目標のうち、「活気があふれ、賑わいのあるまち」について、枚方市には企業団地もあり、多くの事業者があるが、あまり産業が活発というか、活気があふれているイメージを外から持っていていない部分があると思う。イメージではやはり住宅都市であって、働きに来るまちというイメージはあまりないように感じる。しかし、人口が減っていく中で、税金の問題もあるし、労働力が求められるなら、住んでいる近くで働けたら良いということもある。また、高齢者が働くにあたって、そういう傾向も高まってくると思う。そういう意味でいうと、産業のところでは、もう少し枚方なりの特色、例えば、大きな病院がたくさんあるという特徴を活かし、医療と産業界の連携をもっと図っていくなど、枚方にある特色の産業を前面に打ち出していくことで、活気が溢れるまちに向けて取り組んでいくべきである。
2-21	II 基本構想（素案） 3. まちづくりの基本目標（■自然と共生し、美しい環境を守るまち）	（角野委員） 5つの基本目標のうち、「自然と共生し、美しい環境を守るまち」について、「美しい環境」というのは、今の自然なのか、街なかを含めた環境なのかがわかりにくい。環境は都市部も含めて作っていくものだと思う。
2-22	II 基本構想（素案） 4. まちづくりの進め方	（角野委員） 「まちづくりの進め方」のうち、1つ目の「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」が今の場所にあるのは疑問である。また、本文中、行政が支援に回るといった記載があるところも整理した方がよいと思う。
2-23	II 基本構想（素案） 4. まちづくりの進め方	（橋本委員） 「まちづくりの進め方」の4項目のうち、「効率的な市政運営」などは、行政主導的な色合いがあるので、まちづくりワークショップでの意見・提案に沿うものがなければ、事業者やNPOアンケートの結果からこういう部分に沿うようなものがあれば記載したらよいのではないか。また、「市民・NPO・事業者・行政がともに進めるまちづくり」においても、まちづくりワークショップに加え、事業者やNPOアンケートも含めながら、それを根拠としていくこともよいと思う。
2-24	素案全般	（橋本委員） 「ともに進めるまちづくり」を進めるには、NPOが鍵を握っていると思う。NPOが、市民・事業者・行政間の橋渡しになるのではないかと感じるので、NPOをもう少し活用出来るような内容に変えられないかと思う。また、表記では、字数の関係で市民と事業者だけで、NPOが書かれていない箇所もあるので、もう少し活用できるような内容にすることで、「ともに進めるまちづくり」が現実味を帯びてくると感じる。

2-25	素案全般	<p>(高井委員) NPO法人の活動については、団体の中だけで解決してしまおうとしているケースが多いように感じおり、市民や行政などと協働して、活動の輪を広げることが課題だと思う。</p>
2-26	素案全般	<p>(吉川部会長) NPO活動のネットワークやNPO活動の拡大などを支えるところが、枚方にはあるのか。</p> <p>(高井委員) NPO団体をサポートする中間支援組織として、市内に「サプリ村野NPOセンター」がある。市内には約120のNPO法人があるが、センターに登録していない団体もある。 センターでは、各団体の活動を越えたネットワークづくりをめざして、企業や事業者、市民を巻き込み、市内の社会問題に対し、それぞれの団体の利点を活かしたマッチングにより、今までできなかったことをできるようなプロジェクトを検討している。</p>

南海トラフ巨大地震による被害想定について

(「大阪府防災会議南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」による推計結果)

○枚方市域における震度予測は最大震度 6 弱で、津波による浸水想定はありません。

1. 人的被害 (人)

	大阪府域		枚方市域	
	死者数	負傷者数	死者数	負傷者数
建物倒壊による被害	735	21,972	45	1,153
津波による被害	132,967	63,945	0	0
急傾斜地崩壊による被害	2	2	1	1
地震火災による被害	176	3,526	1	0
ブロック塀・自動販売機等の転倒、 屋外落下物による被害	11	1,155	2	62
合計	133,891	90,600	49	1,216

2. 建物被害 (棟)

	大阪府域		枚方市域	
	全壊棟数	半壊棟数	全壊棟数	半壊棟数
揺れによる被害	15,375	160,378	967	9,480
液状化による被害	71,091	181,566	887	3,341
津波による被害	31,135	116,925	0	0
急傾斜地崩壊による被害	79	105	9	11
地震火災による被害	61,473		4	
合計	179,153	458,975	1,867	12,832

3. ライフライン被害 (%)

	被災直後		1日後		4日後		7日後		1ヶ月後	
	府域	市域	府域	市域	府域	市域	府域	市域	府域	市域
上水道 (断水率)	94.0	100.0	45.2	63.2	43.0	61.0	40.6	58.4	14.3	23.8
下水道 (機能支障率)	4.1	3.4	4.1	3.4	3.1	2.9	1.7	2.4	0.0	0.0
電力 (停電率)	49.0	49.0	9.6	2.5	2.0	0.6	0.5	0.0	0.0	0.0
都市ガス (供給停止率)	17.4	66.1	17.4	66.1	16.9	66.1	16.1	66.1	2.4	0.0
固定電話 (不通契約数)	55.7	63.2	15.1	3.2	9.0	2.1	7.5	2.1	3.3	0.0

4. 避難者数 (人)

	1日後		1週間後		1ヶ月後	
	府域	市域	府域	市域	府域	市域
避難所	1,177,950	6,105	1,060,807	34,059	574,567	28,589
避難所外	640,465	4,070	651,901	34,059	1,340,656	66,708
合計	1,818,415	10,174	1,712,708	68,118	1,915,224	95,297

※大阪府ホームページ内にある「南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」のページに
 詳細な資料が掲載されています URL: <http://www.pref.osaka.jp/kikikanri/bukai/>

中核市移行に関する資料

<都市ブランドにつながる主な効果について>

★健康医療都市

●感染症への対応の迅速化

大流行する恐れがあり対策が必要な感染症が発生すると、移行前は、府庁や府の保健所を経由して市に情報が入っていましたが、移行後は、必要な情報が国から直接提供されるため、感染の拡大防止をより迅速に進められるようになりました。

●健康増進の効果的な支援

移行後は、幼児や成人を対象とした栄養指導や食生活の改善指導に加え、学校・病院・福祉施設への栄養指導も市で行うことができ、市民の健康増進につながる、より効果的な支援に取り組めるようになりました。

●母子への保健サービスを一元化

移行後は、府の保健所で実施していた身体障害児の訪問や面接などによる療育相談、先天性代謝異常などの小児慢性特定疾患に係る医療相談・支援を市で行っており、現在、保健センターで担当しているマタニティスクールや乳幼児健診・健康相談と合わせ、母子保健サービスを一元化することで、妊娠期からの保健指導を一貫して行えるようになりました。

★教育文化都市

●教職員研修を市のカリキュラムで実施

移行後は、幼稚園や小学校、中学校の教職員研修を市独自のカリキュラムで実施できるようになり、市の重点施策である「枚方市小中連携事業」を踏まえた研修などを行い、教職員の資質と指導力の向上を図れるようになりました。

●市内の研修で指導時間が増加

府教育委員会が実施する教職員研修は主に大阪市内で実施されており、研修会場への移動に時間を要していましたが、移行後は、主に市内で実施することから移動時間が短縮され、子どもたちと向き合う時間が増加することで、指導を充実できるようになりました。

●重要文化財の保護に向け、管理を充実

市内には片埜神社本殿や交野天神社本殿など、貴重な重要文化財建造物がありますが、移行後は、こうした重要文化財の保存状況に関する報告を求めたり、立入調査を実施するなど、文化財の保護に向けた管理の充実を図れるようになりました。